

教 員 業 績

フリガナ	マスダヒロユキ				
氏 名	増田 浩通				
学 歴					
年 月	事 項				
平成4年 4月	武蔵工業大学工学部経営工学科入学				
平成8年 3月	武蔵工業大学工学部経営工学科卒業				
平成8年 4月	武蔵工業大学大学院工学研究科経営工学専攻修士課程入学				
平成10年3月	武蔵工業大学大学院工学研究科経営工学専攻修士課程修了				
平成10年4月	東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻博士後期課程入学				
平成14年3月	東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻博士後期課程修了 博士（工学）・東京工業大学 工博第3670号				
職 歴					
年 月	事 項				
平成14年4月	東京理科大学理工学部経営工学科嘱託助手（平成19年3月まで）				
平成19年4月	東京工業大学大学院総合理工学研究科知能システム科学専攻21世紀COE研究員 （平成20年3月まで）				
平成19年10月	東京工業大学非常勤講師（平成20年3月まで）				
平成20年4月	千葉工業大学社会システム科学部プロジェクトマネジメント学科助教（平成23年3月まで）				
平成21年10月	日本大学生産工学部マネジメント工学科非常勤講師（平成22年3月まで）				
平成24年4月	多摩大学経営情報学部准教授、多摩大学大学院准教授（現在に至る）				
学 会 及 び 社 会 に お け る 活 動 等					
現在所属している学会	日本経営工学会、プロジェクトマネジメント学会、経営情報学会、日本オペレーションズ・リサーチ学会、大いなる多摩学会、日本人間工学会				

年 月	事 項
平成8 (1996) 年 9月	日本経営工学会会員 (現在に至る)
平成11 (1999) 年8月	プロジェクトマネジメント学会会員 (現在に至る)
平成15 (2003) 年10月	経営情報学会会員 (現在に至る)
平成18 (2006) 年4月	日本オペレーションズ・リサーチ学会会員 (現在に至る)
平成18 (2006) 年5月	日本オペレーションズ・リサーチ学会機関紙編集委員 (平成22年4月まで)
平成20 (2008) 年10月	横幹連合 分野横断型科学技術アカデミック・ロードマップ委員 (平成21年3月まで)
平成21 (2009) 年6月	横幹連合 企画・事業委員会委員 (平成22年3月まで)
平成22 (2010) 年6月	経営情報学会2010年春季全国研究発表大会 プログラム委員
平成28 (2016) 年12月	大いなる多摩学会会員 (現在に至る)
平成30 (2018) 年4月	日本人間工学会会員 (現在に至る)
	賞 罰
年 月	事 項
平成18 (2006) 年3 月	プロジェクトマネジメント学会 2005年度 論文奨励賞 「組織事故へのポリエージェントシステム論的アプローチ」 増田浩通, 木嶋恭一: プロジェクトマネジメント学会学会誌, Vol.2, No.3, p.23-31 (2000)
平成21 (2009) 年 11月	経営情報学会 2009年度 論文賞 「社会的ネットワークを考慮した消費者行動のエージェントベースモデルーデジタルミュージックプレーヤー市場への適用ー」 増田浩通, 上村亮介, 新井健: 経営情報学会誌, Vol.17, No.1, pp.1~23, 平成 20年 (2008) 6月
平成27 (2015) 年5 月	多摩大学 教育職員授業評価 顕彰 「経営科学Ⅱ」

研究分野	研究内容のキーワード	
経営科学, 経営工学	社会シミュレーション, 経営情報システム, 複雑系	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<p>大学演習授業におけるKK-MAS使用事例</p> <p>第3回KKMAS コンペティション,  (株) 構造計画研究所, 優秀賞受賞(平成15年3月) 災害弱者を考慮した避難行動シミュレーションモデル</p> <p>第5回KKMAS コンペティション,  (株) 構造計画研究所, 佳作受賞(平成17年3月) 映画観客動員変動モデルによるマーケティング戦略のシナリオ立案</p>	平成19(2007)年3月7日	(株) 構造計画研究所にて, マルチエージェントシミュレータを用いた東京理科大学理工学部経営工学科での演習で用いた結果を発表した. この演習によりプログラミング技術を習得するのみではなくシステム思考を養うのに有効であったことを発表した. また実験演習授業で得たプログラミング技術及びシステムモデル構築手法の習得により, その後の卒業論文, 修士論文の研究テーマにつなげることができそれにより, 関連研究発表会にて優秀賞と佳作を受賞した.
情報工学概論 情報ネットワーク概論Ⅰ,Ⅱ プログラミング言語入門Ⅱ 情報と通信社会 ITリテラシー 特別講座Ⅰ,Ⅱ 大学院 分散システム論 プレゼミナール ホームゼミナールⅠ,Ⅱ	平成24(2012)年度 担当科目	担当した授業およびゼミの一覧
情報工学概論 情報ネットワーク概論Ⅰ,Ⅱ プログラミング言語入門Ⅱ 特別講座Ⅰ,Ⅱ プレゼミナール プレホームゼミナール ホームゼミナールⅠ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ	平成25(2013)年度 担当科目	担当した授業およびゼミの一覧
情報工学概論 情報ネットワーク概論Ⅰ 経営科学Ⅰ,Ⅱ 特別講座Ⅰ,Ⅱ プレゼミナールⅠ,Ⅱ ホームゼミナールⅠ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ,Ⅴ,Ⅵ	平成26(2014)年度 担当科目	担当した授業およびゼミの一覧

<p>平成 26 年度秋学期ボイス（授業評価）、履修者：50 人～100 人の授業のうち順位 1 位として講義名「経営科学Ⅱ」が教育職員授業評価の顕彰を受けた。</p>	<p>平成 27（2015）年 5 月 27 日</p>	<p>この授業のボイスの結果は、4.15 であり、コメント欄にも大変満足した旨のことが記入されていた。この授業は毎授業、学生にエクセルの課題を出し、T-NEXT 上にその課題を各自アップロードさせる授業形式をとった。これはアクティブラーニングの一形態と考えられる。各学生のエクセルのスキルに合わせ、じっくり課題に取り組む時間を取り、自己理解につなげたことが、学生の授業満足度が高くなったことにつながったと考えられる。</p>
<p>問題解決メソッドⅠ ビジネスコミュニケーション入門Ⅰ 問題解決学入門Ⅰ クリエイティブデザインⅡ IT デザインⅡ，経営情報論Ⅱ 特別講座Ⅰ，Ⅱ プレゼミⅠ，Ⅱ ホームゼミナールⅠ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ，Ⅵ</p>	<p>平成 27（2015）年度 担当科目</p>	<p>担当した授業およびゼミの一覧</p>
<p>問題解決メソッドⅠ 問題解決メソッドⅢ IT デザインⅡ，経営情報論Ⅱ 特別講座Ⅰ・Ⅱ プレゼミⅠ・Ⅱ ホームゼミナールⅠ，Ⅱ，Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ</p>	<p>平成 28（2016）年度 担当科目</p>	<p>担当した授業およびゼミの一覧</p>
<p>情報ネットワーク 経営科学Ⅰ，経営科学Ⅱ 問題解決学入門Ⅱ 経営情報論Ⅱ 特別講座Ⅰ・Ⅱ プレゼミⅠ・Ⅱ ホームゼミナールⅠ，Ⅱ，Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ</p>	<p>平成 29（2017）年度 担当科目</p>	<p>担当した授業およびゼミの一覧</p>
<p>IT コミュニケーション入門 情報ネットワーク 経営科学Ⅰ，経営科学Ⅱ プレゼミⅠ・Ⅱ ホームゼミナールⅠ，Ⅱ，Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ</p>	<p>平成 30（2018）年度 担当科目</p>	<p>担当した授業およびゼミの一覧</p>

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
FD委員会およびMIC委員会	平成24-25年度 (2012-2013)	MIC委員会およびFD委員会での活動を積極的に務めた。
入試委員会およびMIC委員会	平成26-27年度 (2014-2015)	入試委員会：広報誌担当。 MIC委員会：ミニFD、システム関連担当。
入試委員会およびAL支援委員会	平成28-29年度 (2016-2017)	入試委員会：システム担当。 AL支援委員会：AL祭、T-Commons担当。
就職委員会および地域活性化マネジメント委員会	平成30(2018)年度	就職委員会：システム担当。 地域活性化マネジメント委員会：自己点検

研究業績等に関する事項

著書，学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表の 年月	発行所，発表雑誌等 又は 発表学会等の名称	概要
(著書)				

分野横断型科学技術アカデミック・ロードマップ報告書	共著	平成 21 年 (2009) 3 月	横断型基幹科学技術研究団体連合・経済産業省	災害時の人の動きを実際に検証することは難しく、さらに避難行動を検証するにはかなりの手間や時間、危険が伴うため、研究者たちによって理論的な避難行動モデルやコンピュータシミュレーションが開発されている。個々の避難者の属性を細かく設定できる、あるいは環境条件を変更できる、多くの避難者の相互作用つまりコミュニケーションを考慮できる、そして避難している状態を視覚化することができるなど、多くの利点や特徴を持っているエージェントベースシミュレーションを用いた避難モデルについて解説した。 [担当部分] 4. 10 防災・安全シミュレーション, pp.146-151 [共著者] 横断型基幹科学技術研究団体連合編
実践レジリエンスエンジニアリング-社会・技術システムおよび重安全システム への実装の手引き-	共訳	平成 26 年 (2014) 5 月	日科技連出版社	分担翻訳を担当した。
著書, 学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表の 年月	発行所, 発表雑誌等 又 は発表学会等の名称	概 要
(学術論文)				
ビデオリモコンの affordance とユーザのメンタルモデルに関する考察” ,	共著	平成8年 (1996)	人間工学会第26回関東支部大会講演集, pp94-95	坂田理彦, 増田浩通, 帰山秀治, 林喜男, 谷井克則

ビデオリモコンのユーザーのメンタルモデルに関する考察	共著	平成9年 (1997年) 9月	情報処理学会研究報告. HI, ヒューマンインタフェース研究会報告 97巻(88), pp.19-23	最近の家電製品は多機能化が進んだが操作が複雑になり多くの機能が使われずにいる。この原因の一つとして、設計者が意図した製品と、ユーザーが実際に使いやすいと思う製品との間にギャップがあるためと考えられる。上記の問題を解決する第一歩として、家電製品の中で操作がわかりにくいとされるビデオリモコンを用い、ユーザーのメンタルモデルを把握することにした。研究ではアンケート調査により、ボタン配置におけるメンタルモデルの形成を仮定し、次に視線検出法を用いて検証した。 (坂田理彦, 増田浩通, 帰山秀治, 林喜男, 谷井克則)
ビデオリモコンのアフターダンスとユーザーのメンタルモデルに関する研究: その2 視線検出法を用いた分析	共著	平成9年 (1997年)	日本人間工学会大会講演集 38, pp.370-371	(坂田理彦, 帰山秀治, 増田浩通, 林喜男, 谷井克則)
人間要因に基づく製品潜在危険の診断システムに関する研究	共著	平成9年 (1997年)	平成9年度日本経営工学会秋季研究大会予稿集, pp.92-93	増田浩通, 横山真一郎
企業の社会的責任ー「社会品質」	共著	平成10年 (1998年)	平成10年度日本経営工学会秋季研究大会予稿集, pp.59-60	横山真一郎, 関哲朗, 増田浩通
組織事故へのポリエージェントシステム論的アプローチ	共著	平成11年 (1999年)	プロジェクトマネジメント学会 1999年度秋季研究発表大会予稿集, pp151-156	増田浩通, 木嶋恭一

<p>The Socially Responsible Quality - A proposal of New Quality Concept -</p>	<p>共著</p>	<p>平成11年 (1999年) 9月</p>	<p>The Second Asia-Pacific Conference on Industrial Engineering and Management Systems pp.185-188</p>	<p>The Socially Responsible Quality is the new concept of quality management. According to the traditional quality concept, excellent products are required to satisfy the two quality elements, i.e., the normal quality and the attractive quality. 担当部分：論文執筆全般につき担当部分抽出不可能 査読有(Hiroyuki Masuda, Tetsurou Seki and Shin-ichiro Yokoyama)</p>
<p>「信頼」と「信頼性工学」の間にあるもの 副題：エンジニアリングアプローチの限界から、ポリエージェントシステム論的アプローチへ</p>		<p>平成12年 (2000年)</p>	<p>第4回ヒューマン・マシン・システムの信頼性と安全性，電気通信大学 大学院情報システム学シンポジウム要項集，pp54-59</p>	<p>増田浩通，木嶋恭一</p>
<p>社会品質としての安全性</p>	<p>共著</p>	<p>平成12年 (2000年) 3月</p>	<p>電子情報通信学会技術研究報告，pp.7-13</p>	<p>「顧客の立場に立った製品づくり，環境に配慮すること，安全を守ること」といった企業の社会的責任が今まさに問われている。安全や環境に関することが問題となって表出するのは時間がかかる。従って今の時代だけの満足を追求するのではなく，製品のライフサイクルを考慮して，安全確保(安全性)や環境保護(環境性)についても検討していかななくてはならない。この論文では，これら安全性，環境性，使用性の3つのベクトルを視野に入れた品質目標を一つの品質概念，つまり「社会品質:Socially Responsible Quality(SRQ)」と定義した。社会あるいは生活者は，この社会品質に対する企業の取り組み方やその達成度合いから各企業を評価する必要性があることを述べた。(横山真一郎，増田浩通，関哲朗)</p>



<p>Poly-agent systems approach to organizational accidents: Theory and its applications</p>	<p>共著</p>	<p>平成12年 (2000年) 6月</p>	<p>Fifth International Conference, Asia-Pacific Region of Decision Sciences Institute, CD-ROM</p>	<p>The purpose of this research is to analyze and obtain insights for preventing fatal accidents in organization-based projects by poly-agent systems approach, a kind of systems thinking. To prevent such accidents, it is certainly indispensable to recognize and understand potential danger at the stages of "concept making" and "predetermined definition" of the project management.担当部分：論文執筆全般につき担当部分抽出不可能 査読有(Hiroyuki Masuda, and Kyoichi Kijima)</p>
<p>プロジェクトマネジメントにおける社会品質の位置付け</p>	<p>共著</p>	<p>平成12年 (2000)</p>	<p>プロジェクトマネジメント学会研究発表大会予稿集,pp.99-100,</p>	<p>プロジェクトマネジメントにおいて、プロジェクトの目標とするところの品質を達成することは、プロジェクトの成否を決定付ける重要な要因である。一般にプロジェクトは有期的な活動であるといわれ、その目標品質もプロジェクトライフサイクルの中で達成されることが期待されている。一方で、プロジェクトの創生母体である企業等には無期的、拡大的な存続が期待されている。 (増田浩通, 関哲朗, 横山真一郎)</p>

組織事故へのポリエージェントシステム論的アプローチ	共著	平成12年 (2000) 8月	プロジェクトマネジメント学会学会誌 Vol.2, No.3, pp.23～31	本研究の目的は、組織における事故発生の構造をシステム論的に解析し、今後のプロジェクトマネジメント段階での予防アプローチへ貢献することである。まず安全問題には多領域にわたる学際的なリスクマネジメント研究の必要性があることを指摘する。それをふまえて本研究では安全問題の中から特に「組織事故」に焦点を当てる。 担当部分：論文執筆全般 査読有（増田浩通, 木嶋恭一）
クレーム及び事故情報を活用した安全品質保証システム構築の一提案－建築産業を例にして－	共著	平成12年 (2000) 10月	日本経営工学会誌 Vol.51, No.4, pp.380～388	建築産業においては、欠陥住宅は依然として多く社会問題になっている。事故分析をすると類似の事故が繰り返し発生しているのが分かる。過去の事故情報が再発防止のために活用されていないためであると考えられる。建築産業界は事故の情報や事故につながるクレーム情報をより積極的に収集解析し、その結果を建築物の安全性のために利用することが必要である。本研究では、まず安全性の観点から過去の判例及び事故・事例、クレームを調査し、顧客の実際の使用状態の把握を行った。そしてこのクレーム情報を活用した安全品質保証システムの構築を目的とした。 担当部分：論文執筆全般につき担当部分抽出不可能 査読有（増田浩通・横瀬智彦・角田喜章、横山真一郎）
複雑システムとしての組織の安全に関する研究－失敗を学習する組織と安全文化－	単著	平成14年 (2002年) 3月	東京工業大学 工博 第3670号	博士論文

Socially Responsible Quality as Base of Enterprise Project Management	共著	平成14年 (2002年)	ProMAC2002, Marina Mandarin Hotel, Singapore, 31 July - 2 Aug, Vol2, pp 645-651	Hiroyuki Masuda, Tetsurou Seki and Shin-ichiro Yokoyama  (査読付き)
エージェントベースド シミュレーションを用 いた組織内の安全情報 伝達	共著	平成15年 (2003年) 3月	SICE, 第28回システ ム工学部会研究会 「人工社会・組織・ 経済におけるエー ジェント指向シミュ レーション」～組織 の評価とゲーミング シミュレーション からの接近～, pp17-22	増田浩通, 木嶋恭一
開発事業計画過程の繰 り返し交渉モデル	共著	平成15年 (2003年) 3月	SICE, 第28回システ ム工学部会研究会, pp13-16	夏井崇博, 新井健, 増田浩通
災害弱者を考慮した避 難行動シミュレーショ ンモデル,	共著	平成15年 (2003年) 3月	第3回KKMAS コン ペティション, (株)構造計画研究 所	新井健, 増田浩通, 落合哲郎 優秀賞受賞【部門1 学術的 な研究分野】
ハイパーマーケットに おける食料品売場の 比較分析～カルフル 幕張店の事例研究～	共著	平成15年 (2003年) 3月	第3回KKMAS コン ペティション, (株)構造計画研究 所	増田浩通, 野村耕太郎, 新井 健
Estimating the Potential for Transition to Commercial Land Use at a 10-m Square Cell to be Applied to a CA- based Land Ues Model	共著	平成15年 (2003年) 5月	Proceedings of the 8th International Conference on Computers in Urban Planning and Urban Management	Takeshi Arai, Hiroyuki Masuda

都市郊外幹線道路沿道用地の商業用地への推移ポテンシャルの推定: 国道16号線沿いの事例研究	共著	平成15年 (2003年) 9月	『地理情報システム学会講演論文集』12巻 地理情報システム学会, 2003年, pp. 347-350	詳細な時系列である細密数値情報(10mメッシュ土地利用)を用いて幹線道路を中心に土地利用を分析し, 周囲の土地利用状況がどのような影響を及ぼすかを, 近隣の影響を考慮する手法(セル・オートマトンの考え方)を用いて, 分析した. 千葉県北西部に位置する柏市を対象に, 3km×2kmの範囲で1974-1994年までの5時点データを利用した. 細密数値情報をExcelデータに変換し国道や駅からの影響を距離ごとにまとめ, セルの交通便利性を把握して, 近隣の土地利用の影響を商業用地と道路用地に絞って調査し, 土地利用動態の推移ポテンシャル関数を試算した. その結果, 幹線道路沿道の土地利用を予測し, 商業用地開発に役立てることができた. 担当部分: 論文執筆全般につき担当部分抽出不可能 (加藤公洋, 増田浩通, 新井健)
CAベースの土地利用モデルにおける住宅地への推移ポテンシャルの推定	共著	平成15年 (2003年) 9月	地理情報システム学会講演論文集 = Papers and proceedings of the Geographic Information Systems Association 12, pp.343-346	(安西教明, 増田浩通, 新井健)
エージェントベースドシミュレーションを用いたハイパーマーケットにおける食料品売り場の比較分析	共著	平成15年 (2003年) 10月	平成15年度日本経営工学会秋季研究大会予稿集, pp.140-143	野村耕太郎, 増田浩通, 新井健

Socially Responsible Quality as Base of Enterprise Project Management	共著	平成15年 (2003年) 10月	プロジェクトマネジメント学会学会誌 Vol5, No.2, pp.34～39	The Socially Responsible Quality (SRQ) is a new concept in quality management. Enterprises and corporations will need to adopt this concept to improve project management. Enterprises and corporations should fulfill their responsibilities to society so that they can gain society's confidence. 担当部分：論文執筆全般につき担当部分抽出不可能 査読有 ( <a href="#">Hiroyuki Masuda</a> , <a href="#">Tetsurou Seki</a> and <a href="#">Shin-ichiro Yokoyama</a> )
開発事業計画過程におけるゲーミングとABSを融合した交渉シミュレーションアプローチ	共著	平成15年 (2003年) 11月	経営情報学会 2003年秋季全国研究発表大会, 函館大学, pp.270-273	夏井崇博, 増田浩通, 新井健
首都圏の地方自治体におけるホームページ開設効果の分析	共著	平成15年 (2003年) 11月	経営情報学会 2003年秋季全国研究発表大会, 函館大学, pp.98-101	渡邊嘉男, 増田浩通, 新井健
エージェントベースドシミュレーションを用いた組織内のインシデントレポート伝達過程解析に関する研究	単著	平成15年 (2003年) 12月	経営情報学会誌 Vol.12, No.3,pp.71～94	本論文では,マルチエージェントシミュレータSwarmを用いて,多主体複雑系の概念を用いながら組織内のインシデントレポート伝達過程をPC上で実装し,エージェントベースドシミュレーションにより,安全な組織の設計のための指針を考察することを目指す. 査読有 (単独)
公共事業計画に関する合意形成シミュレーションモデルの研究	共著	平成16年 (2004年) 3月	SICE, 第32回システム工学部会研究会, pp19-24	夏井崇博, 新井健, 増田浩通

都心地区での災害時避難シミュレーションモデルの開発	共著	平成16年 (2004年) 3月	第4回KKMAS コンペティション, (株)構造計画研究所	宇田川金幸, 金栗遼太郎, 増田浩通, 新井健
スケールフリーネットワークを利用した消費者意思決定モデル	共著	平成16年 (2004年) 3月	第4回KKMAS コンペティション, (株)構造計画研究所	筒井泰裕, 増田浩通, 新井健
Integrated Model of Emergency Evacuation of People after a Big Earthquake at the Busy Quarter near a Major Junction Station in Suburban Tokyo	共著	平成16年 (2004年) 5月	the International Conference on Complex Systems (ICCS 2004), Boston, US	Hiroyuki Masuda, Takeshi Arai, et al. poster session
Estimation of the Functions Describing Transition Potentials of Land Use at Cells Applied to Cellular Automata Based Models of Land Use	共著	平成16年 (2004年) 5月	the International Conference on Complex Systems (ICCS 2004), Boston, US	Takeshi Arai, Hiroyuki Masuda, et al. (査読付き)
MASを用いた地下鉄駅構内における避難シミュレーションモデルの構築	共著	平成16年 (2004年) 7月	第34回安全工学シンポジウム, pp.169-172	増田浩通, 長谷川崇, 宇田川金幸, 新井健
避難者救助・誘導員を考慮した避難・救助マルチエージェントシミュレーションモデル	共著	平成16年 (2004年) 7月	第34回安全工学シンポジウム, pp.177-180	長谷川崇, 増田浩通, 金栗遼太郎, 新井健
セルオートマトンを適用した街区単位の土地利用動態モデルの開発	共著	平成16年 (2004年) 10月	地理情報システム学会 第13回研究発表大会, 工学院大学, pp.75-78	田中慎也, 加藤公洋, 安西教明, 増田浩通, 新井健
多地域半導体技術発展・生産シミュレーションモデルの構築～日米韓三カ国モデル～	共著	平成16年 (2004年) 10月	平成16年度日本経営工学会秋季研究大会 予稿集, pp.88-89	数野良樹, 増田浩通, 新井健
NIMBY 施設建設における交渉シミュレーションモデルの開発～原子力発電所建設を事例として～	共著	平成16年 (2004年) 11月	経営情報学会 2004年秋季全国研究発表大会, 名古屋工業大学, pp.196-199	山根健史, 増田浩通, 新井健

第3種空港の旅客数変動要因の分析	共著	平成16年 (2004年) 11月	経営情報学会 2004年 秋季全国研究発表大 会, 名古屋工業大 学, pp.128-131	細井匠,増田浩通,新井健
映画観客動員変動モデルによるマーケティング戦略のシナリオ立案	共著	平成17年 (2005年) 3月	第5回KKMAS コンペ ティション, (株) 構造計画研究所	上村亮介, 増田浩通, 新井健  佳作受賞【部門2 研究利 用, 学術的な研究部門】
An Agent-based Simulation Model of Evacuation in a Subway Station	共著	平成17年 (2005) 6月	Proceedings of The 9th International Conference on Computers in Urban Planning and Urban Management (CUPUM05), London, UK, Internet	The purpose of this study is to build an agent based simulation model of evacuation behaviors at platforms in a subway station in order to mitigate the damage when a disaster occurs. To accomplish this purpose, we need to understand subway passengers' behaviors. It is difficult to reenact the scene of disasters and evacuation drills spend too much time and money to conduct them often. 担当部分: 論文執筆全般につ き担当部分抽出不可能 査読有 ( <u>Hiroyuki MASUDA</u> and Takeshi ARAI)
A Simplified CA and Markov model of Land-use dynamics in a suburb of the Tokyo metropolitan region	共著	平成17年 (2005) 6月	The 9th International Conference on Computers in Urban Planning and Urban Management (CUPUM05), 29 June - 1 July, London, UK	Takeshi Arai, Hiroyuki Masuda and Shinya Tanaka, (査読付き)
ターミナル駅周辺にお ける街路避難シミュレ ーションモデルの構築	共著	平成17年 (2005年) 7月	第35回安全工学シン ポジウム, pp.139- 142	増田浩通, 新井健
ニュータウン地区の土 地利用動態モデル	共著	平成17年 (2005年) 9月	地理情報システム学会 講演論文集 = Papers and proceedings of the Geographic Information Systems Association 14, pp.57- 60, 2005-09-30	(田中慎也, <u>増田浩通</u> , 新井健)

電力市場自由化を想定した相対取引シミュレーションモデル	共著	平成17年 (2005年) 11月	経営情報学会 2005年 秋季全国研究発表大 会, 中村学園大学, pp.456-459	黒田直宏, 増田浩通, 新井健
映画作品市場のマルチエージェントモデル	共著	平成17年 (2005年) 11月	経営情報学会 2005年 秋季全国研究発表大 会, 中村学園大学, pp.196-199	上村亮介, 増田浩通, 新井健
短期トレーダーが株式市場に及ぼす影響のマルチエージェントシミュレーション分析	共著	平成17年 (2005年) 11月	経営情報学会 2005年 秋季全国研究発表大 会, 中村学園大学, pp.192-195	佐藤政允, 増田浩通, 新井健
A Multi-Regional Model of the Development in Technology Industries	共著	平成17年 (2005) 11月	International Journal of Knowledge and Systems Sciences (IJKSS) Vol. 2, No. 4, pp.54~60	Forecasting the production of technological development and manufacturing is important to managers, entrepreneurs, governments and others. This paper aims to propose a System Dynamics model for the semiconductor industry in multi-regions, such as Japan, United States of America, and South Korea. 担当部分：論文執筆全般につき担当部分抽出不可能 査読有 (Yoshiki Kazuno, <u>Hiroyuki Masuda</u> and Takeshi Arai)
電力小売市場における地域差の選好要因を考慮した相対取引モデル	共著	平成18年 (2006年) 1月	エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス講演論文集 = Proceedings of the Conference on Energy, Economy, and Environment 22, pp.375-378, 2006-01-26	(黒田直宏, 増田浩通, 新井健)
マルチエージェントシミュレーションによるドラッグストア店内レイアウトの効果分析	共著	平成18年 (2006年) 3月	第6回KKMAS コンペティション, (株)構造計画研究所	菊池晋矢, 増田浩通, 新井健
グループ行動特性を考慮した繁華街地区におけるエージェントベース避難モデル	共著	平成18年 (2006年) 7月	安全工学シンポジウム2006, pp.97-100	増田浩通, 新井健, 渡部慶之



An agent-based model of consumers' behavior influenced by the media, the Internet and word-of-mouth: An application to the movie market in USA	共著	平成18年 (2006) 8月	Proceedings of The First World Congress on Social Simulation (WCSS2006), Kyoto, Japan, CD-ROM	The paper proposes to explain macro dynamics modeling consumer behaviors. It fits the potential features of agent based modeling and it can represent an original work in the marketing and consumer behavior literature. 担当部分：論文執筆全般につき担当部分抽出不可能 査読有(Hiroyuki Masuda, Ryosuke Kamimura and Takeshi Arai)
小売業競合システムダイナミクスモデルによる新線開通の影響分析	共著	平成18年 (2006) 11月	平成18年度日本経営工学会秋季研究大会発表予定, 県立広島大学, pp.132-133	渡辺友樹, 新井健, 増田浩通
地方自治体ウェブサイトによる情報提供に関する調査分析	共著	平成18年 (2006) 11月	経営情報学会 2006年秋季全国研究発表大会, 神戸商科大学・兵庫県立大学神戸学園都市キャンパス, pp.240-243	新井健, 増田浩通, 渡辺友樹
地方自治体への申請手続における個人情報漏洩対策のFTAによる分析	共著	平成18年 (2006) 11月	経営情報学会 2006年秋季全国研究発表大会, 神戸商科大学・兵庫県立大学神戸学園都市キャンパス, pp.396-399	森岡亜依, 増田浩通, 新井健,
消費者購買行動のマルチエージェントモデル映画市場を事例として	共著	平成18年 (2006) 12月	日本経営工学会誌 Vol.57, No.5, pp.450~469	情報化の進展により複雑化を増した消費者行動を理解する一手段としてマルチエージェントシミュレーションによる研究を試みた. エージェント同士の情報伝達や個々の選好, 影響の受けやすさ, 過去の購買経験などの要因, さらに広告による情報を加えることで消費者の購買意思決定行動を記述し, それらの総体としての市場全体での消費者動向を表現できるモデルを構築した. 担当部分：論文執筆全般につき担当部分抽出不可能 査読有 (上村亮介, 増田浩通, 新井健)

大学演習授業におけるKK-MAS使用事例	共著	平成19年 (2007) 3月	第7回MAS コンペティション, (株) 構造計画研究所	増田浩通, 新井健
社会的ネットワークを考慮した消費者行動のエージェントベースモデルーデジタルミュージックプレイヤー市場への適用ー	共著	平成20年 (2008) 6月	経営情報学会誌 Vol.17,No.1, pp.1～23	本研究では, 複数の競合製品があり, また個性が異なる複数の消費者が存在する市場をモデル化する. このモデルでは, 一定期間内における複数の同種製品の販売量を推計する. このモデルをネットワーク外部性効果が働くデジタルミュージックプレイヤー市場に適用し, 市場全体の反応を分析することの有効性を探る. 担当部分: 論文執筆全般につき担当部分抽出不可能 査読有 (増田浩通, 上村亮介, 新井健)
公的研究機関における優先的研究開発テーマの評価に向けた意思決定手法の提案	共著	平成20年 (2008)	経営情報学会 全国研究発表大会要旨集, p.2	我が国の公的研究機関に対してこれまで以上に産業の発展、及び持続可能な社会実現に貢献することへの期待が高まっている中、優先的研究開発テーマの選定や評価に関する方法論の明示等について説明責任を果たすことはこれまで以上に重要となる。  (森本慎一郎, 増田浩通)
持続可能社会実現に向けた研究開発テーマの評価に関する方法論の提案	共著	平成20年 (2008) 12月	エコデザイン 2008 ジャパン シンポジウム, 東京ビッグサイト (東京都江東区有明)	森本慎一郎, 増田浩通
パネル討論 「社会システムシミュレーション技術のアカデミックロードマップ」	単著	平成21年 (2009) 6月	第28回日本シミュレーション学会大会, 芝浦工業大学 豊洲キャンパス	増田浩通, パネリスト
競争的資金獲得における研究者の意思決定モデル	共著	平成21年 (2009) 7月	経営情報学会2009年春季全国研究発表大会, 明治大学, CD-ROM	飛田正一, 増田浩通, 森本慎一郎

<p>エージェントベースシミュレーションによる小売店舗レイアウトの効果分析</p>	<p>共著</p>	<p>平成21年 (2009) 8月</p>	<p>日本経営工学会誌 Vol.60, No.3, pp.128～144</p>	<p>本研究は、明確な訪店目的を持ち計画的に購買する消費者に対し、より多くの商品を購入して頂くよう購買意思（購買意欲）を誘引し、売り上げの向上を見込める適切な店内レイアウトを、マルチエージェントシミュレータ（Multi agent simulation 以下 MAS）により分析・検証することを目的とする。研究対象は、計画購買消費者の割合が高いと予想されるドラッグストアを用いた。 担当部分：論文執筆全般につき担当部分抽出不可能 査読有（増田浩通, 菊池晋矢, 新井健）</p>
<p>競争的資金獲得における研究者の意思決定モデル</p>	<p>共著</p>	<p>平成21年 (2009)</p>	<p>経営情報学会 全国研究発表大会要旨集, pp.49-49</p>	<p>イノベーション創出に向けた効果的な研究開発投資は我が国にとっても重要な課題である。我が国ではこれまで内閣府総合科学技術会議な文部科学省を中心に効果的な競争的研究資金の動向やあり方、および制度設計について検討が行われ、その中では研究者の意識調査も行われてきた。しかし競争的研究資金制度の中で特に資金配分の単位や審査方法などの「資金配分方法」は研究者の競争的研究資金獲得や研究実施に向けたインセンティブに…  (飛田 正一, 増田浩通, 森本慎一郎)</p>

<p>研究戦略策定における意思決定手法の適用に関する調査研究</p>	<p>共著</p>	<p>平成26年 (2014) 2月</p>	<p>経営情報研究：多摩大学研究紀要(18), pp.51-62</p>	<p>本調査研究ではこれまで公的研究機関や企業等、様々な組織の研究開発戦略策定において、各種意思決定手法を適用した事例を包括的に調査・分析すると同時にそれら組織の研究開発戦略策定において各種意思決定手法を適用する場合の課題について分析を行った。その結果、調査した各種意思決定手法を研究開発戦略策定に適用する場合、将来の不確実性に対しては各種意思決定手法の特性に応じて異なる課題を持つものの、研究開発戦略策定に向けた合意形成については意思決定者の恣意性や政治的影響の排除、及び意思決定者と意思決定手法参加者との交流促進など共通的な課題があること、さらに多様な分野への汎用性についてはいくつかの意思決定手法は基本的に適用出来る研究開発分野に限界と制約があるなどが明らかになった。 査読有（森本慎一郎，増田浩通）</p>
<p>防災ゲーミングからのデータ活用</p>	<p>単著</p>	<p>平成28年 (2016) 9月</p>	<p>2016年度統計関連学会連合大会講演報告集, p.319, 金沢大学角間キャンパス</p>	<p>災害対応ゲーム「クロスロードゲーム」を多摩大学にて実施した。その様子を報告したものである。 クロスロードゲームとは大地震の被害軽減を目的に文部科学省が進める「大都市大震災軽減化特別プロジェクト」の一環として開発された。阪神・淡路大震災において災害対応にあたった神戸市職員へのインタビューの内容をもとに、実際の対応において神戸市職員が経験したジレンマの事例をカード化した、ゲーム形式による防災教育教材である。（増田浩通）</p>

災害対応ゲーミングからのデータ活用	単著	平成29年 (2017) 2月	経営情報研究：多摩大 学研究紀要(21), pp.109-116	防災ゲーミングを実施したことにより地域住民側（連光寺・聖ヶ丘地域福祉推進委員会）と多摩大学の連携がうまくいくことができ、今後の大学と地域住民との交流の礎となりうるものになった。そしてデータ活用の観点からは、大学生と地域住民が入り混じった災害対応ゲーミングの実施により、属性の異なる参加者のデータを集めることができたといえる。属性の異なる者同士がゲーミングを行うことで、多くの「気づき」があったと考えられる。最後に地域住民の防災教育及び世代間交流に資することができ、学生のアクティブ・ラーニング教育においても有効であったと考える。 査読なし（増田浩通）
レジリエンスエンジニアリング RAG (Resilience Ability Grid) を用いた防災意識に関する住民アンケート分析	単著	平成30年 (2018) 6月	日本人間工学会第59回大会 宮城学院女子大学	本研究は、多摩ニュータウンの都市特性を把握し、その特性に応じた災害に強いコミュニティをデザインし、マネジメントしていくことを目的とする。本発表では、多摩大学周辺の住民に対し、「防災意識に関する住民アンケート」を実施した結果を、レジリエンスエンジニアリングの RAG (Resilience Ability Grid) のコンセプトをもとに分析したことを報告する。（増田浩通）
著書，学術論文等の名称	著者別 単共の	発行又は 発表の 年 月	発行所，発表雑誌等 又 は発表学会等の名称	概 要

<p>(その他) 論文賞受賞講演「社会システムシミュレーション技術の社会的ネットワークを考慮した消費者行動のエージェントベースモデルーデジタルミュージックプレ</p>	<p>共著</p>	<p>平成22年 (2010) 6月</p>	<p>2010年春季全国研究発表大会, 東京工业大学 大岡山キャンパス</p>	<p>2009年度経営情報学会の論文賞を受賞したため, その受賞講演を行った.</p>
<p>プロジェクトリスクマネジメントにおける社会シミュレーションの応用</p>	<p>単著</p>	<p>平成22年 (2010) 7月</p>	<p>千葉工业大学 『プロジェクト研究年報』Vol.7, pp.89～90</p>	<p>プロジェクトリスクマネジメントにおける社会シミュレーションの応用について,ゲーミング手法を用いた例を示した.</p>
<p>多摩地域における災害時の流通システム回復性の研究ー東日本大震災における道の駅の役割をヒントにー (中間発表)</p>	<p>研究代表</p>	<p>平成26年 (2014) 2月</p>	<p>経営情報研究: 多摩大学研究紀要 (18), pp.165-168</p>	<p>24年度の共同研究の中間報告を記述した。  (増田浩通, 諸橋正幸, 出原至道, 彩籐ひろみ, 松本祐一, 酒井麻衣子)</p>
<p>多摩地域における災害時の流通システム回復性の研究ー東日本大震災における道の駅の役割をヒントにー</p>	<p>研究代表</p>	<p>平成27年 (2015) 2月</p>	<p>経営情報研究: 多摩大学研究紀要 (19), pp.207-210</p>	<p>25年度の共同研究の研究報告を記述した。  (増田浩通, 諸橋正幸, 出原至道, 彩籐ひろみ, 松本祐一, 酒井麻衣子)</p>
<p>「内向き志向」の若者を「外向き志向」に育てるプロジェクト研究</p>	<p>共同研究者</p>	<p>平成28年 (2016)</p>	<p>経営・情報研究: 多摩大学研究紀要 (20), 199-202, 2016</p>	<p>26年度の共同研究の研究報告を記述した。  (金子邦博, 清松敏雄, 増田浩通 [他])</p>
<p>多摩ニュータウンにおける災害に強いコミュニティデザインに関する研究</p>	<p>研究代表</p>	<p>平成29年 (2017) 2月</p>	<p>経営情報研究: 多摩大学研究紀要 (21), pp.169-172</p>	<p>28年度の共同研究の研究報告を記述した。  (増田浩通, 中庭光彦, 奥山雅之, 松本祐一, 久保田貴文)</p>
<p>統計的シミュレーションモデルをもとにした意思決定支援システム</p>	<p>共同研究者</p>	<p>平成30年 (2018)</p>	<p>経営情報研究: 多摩大学研究紀要 (22), pp.209-212</p>	<p>29年度の共同研究の研究報告を記述した  (今泉忠, 久保田貴文, 増田浩通)</p>
<p>多摩ニュータウンにおける災害に強いコミュニティデザインに関する研究(2)</p>	<p>研究代表</p>	<p>平成30年 (2018)</p>	<p>経営情報研究: 多摩大学研究紀要 (22), pp.213-216</p>	<p>29年度の共同研究の研究報告を記述した。  (増田浩通, 中庭光彦, 奥山雅之, 松本祐一, 久保田貴文)</p>

文部科学省研究費補助金 若手研究 (B) 「エージェントベース ドシミュレーションを 用いた群集避難行動解 析と事故予防計画の構 築」 (増田浩通)	研究 代表	平成16～ 18年度  (2004- 2007) 年 度		研究経費：3,700千円
---	----------	---	--	--------------